

力強い農業 のために

特集
1

消費者の皆様が笑顔になるよう、おいしい農畜産物をいつでもお届けすること、それが私たちの使命です。
私たちJAは組合員とともに、信頼される「力強い地域農業」の創造に取り組んでいます。

作物別部会の取り組み

作物の生産にあたってのルールづくり



同じ作物を作る仲間が集まって、その作物に関する栽培技術などJAやセンターと一緒に学習会や畠などの現地で講習会を開催したり、それぞれの生産者の畠やハウスを巡回し、生育の確認を行ったり、収量の調査を行うなど、高品質・高収量の生産を目指し、生産者間でも切磋琢磨しています。

高品質・高収量・安定供給を目指した取り組み



産地の責任として消費者の皆様に農畜産物を安定的に供給することが求められています。そのためにも、玉ねぎなどでは、早生や中生、晩生などの品種を組み合わせて作付し、出荷時期を調整することで、長い期間消費者の皆さんに供給出来るよう工夫しています。

より信頼される産地に向けて



生産者自らが都府県の市場や量販店に出向き、直接自分たちが作った生産物の価値を伝え、また消費者の皆様の声に触れることで、「求められる人に応えていく」信頼される産地に向けた取り組みを行っています。



佐伯 辰也 (平成13年入組)

販売企画部玉ねぎグループ
調査役

業務について

・玉葱販売
・「きたみらい玉葱振興会」事務局

担当職員の一人として

新型コロナウイルス感染症により、外食産業の低迷など販売環境は厳しく、不透明な状況が続いている。更には今後産地間競争も益々熾烈になることが予想されますが、生産者の安定所得確保を目指し、業務にあたっています。

暗いニュースが多い中、事務局をさせて頂いている「きたみらい玉葱振興会」が日本農業賞大賞の栄誉を受けられたことに大変嬉しく思っております。

所得向上に向けた取り組み



1

販売力の強化

当JAでは安心安全な農畜産物を安定的に消費者の皆様のお届け出来るよう、販売力の強化に繋がる施設整備を計画的に進めており、農産物の品質維持と安定供給に貢献しております。平成19年度に小麦乾燥調製貯蔵施設、平成24年度に馬鈴しょ集出荷選別施設、平成31年度に玉ねぎ集出荷施設・冷蔵貯蔵施設を竣工し、農産物の品質の維持と安定供給に貢献しております。

今後、輸入農畜産物との競合が強まる可能性から、農業所得向上のために、国内への安定的な供給を前提としながら、国外への輸出に取り組んでいくことも求められています。

当JAは玉ねぎについて、国内需給調整の観点から道内のJAと連携し台湾を中心に輸出を行っております。また、北見市や市内企業と連携し極東ロシアへ現地で需要の高い小玉(S規格)の輸出を行っており、令和2年度産に245トン実施し、更に販売チャネルや消費者ニーズの開拓を進める計画です。



2

「きたみらいブランドの確立と付加価値の向上」

2009年より加工商品の開発・販売の専門部署を設置し、「きたみらい」と「JAきたみらい」のブランドの確立と農畜産物の更なる付加価値向上を目指した商品づくりに取り組んでおります。

地元農畜産物を最大限利用し、「他にない」、「きたみらいしさ」を表現できる商品づくりをコンセプトに、これまで20以上の商品を開発・販売し、売上げは約1億円となっております。

また、地域イベント・食品流通業界の展示商談会への参加や、学校給食・地元飲食店等への農畜産物・加工商品の供給により、JA「きたみらい」・地元地消のPRを行っております。



3

効率効果的な事業展開によるコスト低減

当JAは合併当初から地域の融合と合併メリットの追求を目指して様々な角度から経営改革を実践しています。

農業経営の面では、スケールメリットを最大限発揮しうる施設の再編・集約を実施し、コスト低減肥料の推進や玉ねぎ段ボールのフラップ(ふた)の改良によるコストカット、スマート農業の導入に向けた取り組み等、コスト削減に努めています。

JA経営の面では、「経営資源の選択と集中」の観点から業務の再編を行っております。

第50回 日本農業賞大賞受賞



「日本の農業の確立を目指して、意欲的に経営や技術改善に取り組み、地域社会の発展にも貢献している組織」として、「きたみらい玉葱振興会」が第50回日本農業賞集団の部で大賞を受賞しました。また、今回の日本農業賞の受賞と同時に農林水産大臣賞も併せて受賞しました。同振興会では今後も消費者から「選ばれる産地」として品質向上と安定的な生産・量の確保を役割と捉え、さらなる「きたみらいブランド」の構築に取り組んでいきます。

関連するSDGsへの取り組み

